

J R 芸備線の状況等に関するヒアリング結果について

1 要旨

5 月 10 日（水）に広島市内で開催された標題の件について結果を報告する。

2 ヒアリングの内容

(1) J R 西日本からの説明

- 芸備線全区間の利用状況（※前回ヒアリングでは、備後庄原～備中神代の一部区間のみ）
- 芸備線全区間の収支内訳 ⇒ 広島～下深川間も赤字であることを確認
- J R 西日本の経営状況（2022 年度期末決算）
⇒ 3 期ぶりに黒字化（純利益 885 億円）したことを確認
- 投資や運輸収入について、新幹線・京阪神エリアの在来線・その他エリアの在来線の割合

(2) 国土交通省からの情報提供

- 法改正の概要や「再構築協議会」の具体的な運用、「社会資本整備総合交付金」による支援制度に係る説明があった。
- 今後のスケジュールとして、運用方針の決定は 8/1、法施行は 10/1 を予定。

(3) 本県の主張

- J R は、国鉄改革時に、不採算路線を含めて事業全体で採算が確保されるように事業用固定資産の承継などが行われた経緯がある。
- 今後、持続可能な地域の公共交通を議論していくに当たって、「J R がそのまま運行することが最も持続可能性ではないのか」、上下分離やバス転換には、地元負担という課題がある。
- 地域住民が十分な説明を受けた上で、必要な議論ができるよう、その前提となる全路線の収支等と内部補助に関する説明を求めている。

⇒（J R 西日本からの回答）

- 全路線収支等の開示と内部補助に関する説明については、芸備線に関してのみ全区間の収支を開示され、不十分なものであった。

3 今後の対応

引き続き、本県主張の理解が得られるよう、国と J R 西日本に働きかける。